



富山薬窓会首都圏支部

目 次

支部長ごあいさつ	(55、43年卒) 柿崎 直和	1
総会での話題提供「英国の医療制度と薬剤師の職能」 ..	(83、H8年卒) 葛西 美恵	2
19年度本部総会に出席して	支部長	3
老化を楽しむ	(59、47年卒) 松本茂外志	3
ホノルルセンチュリーライドに参加して	(53、41年卒) 岩崎 孝一	4
ゴルフクラブ便り	(55、43年卒) 柿崎 直和	5
桔梗会便り	(57、45年卒) 米沢 伸子	7
写真紀行「ジヨムソン街道トレッキング」	(48、36年卒) 中嶋 啓	8
平成18・19年度 支部年会費納入者一覧		9
平成19年度支部活動報告		15
首都圏支部資産状況		15
平成19年度会計報告、平成20年度予算(案)		16
編集後記		17



いよいよ、薬剤師本来の職能を 求められる時代に

首都圏支部長(55、S43年卒) 柿崎直和

支部会員のみなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、支部の活動に対する日ごろのご協力とご支援を感謝申し上げます。

先日届いた本部の会報には、「同窓会連合会」発足の記事が特集されていました。小生は、せっかく連合会として大同団結したのですから、何か新しい行動を起こすべきだと考え、「『富山県民をメタボにしないキャンペーン』を始めませんか?」という提案を薬窓会本部に出ささせていただきました。連合会幹事会で「薬窓会の一同窓生からの提案」として紹介され、「薬窓会で再検討」として差し戻されたとのことでした。本部では、拙文を「遠久朶」に掲載してくださいましたので、お読みくださった方も多くおられると思いますが、今、社会的に大きな問題となっているメタボであり、国民の各層から幅広く行動を起こしていかなければ、メタボ退治はできないと思います。

連合会の同窓生が7万5千人もいるのですから、みんなで知恵を出し合えば、かなり実効の上がる具体策が打ち出せると思われます。キャンペーンに必要と考えられるすべての機能と人材が富山に揃っているわけですから、まずは対象を「富山県民」と絞りましたが、メタボにならない努力は決して他人事ではありません。たとえどこに住んでいようとも、キャンペーンの趣旨に沿って、個人々々が率先して取り組むことは当然です。

さて、4月から診療報酬の改定が行われましたが、医療費削減策の柱の一つとして、医師と薬剤師双方に対して後発医薬品の使用促進が努力義務とされ、実行され始めました。とくに調剤に携わる薬剤師にとっては、処方医薬品の選択権が委ねられたという、きわめて大きな意義をもつ改定であると同時に、医師や他のコメディカルの人たちに対して存在感を高める大きなチャンスにもなると思います。もちろん、患者さんに対して後発医薬品の情報を過不足なく提供することによって、安心して服薬いただく(薬剤変更による副作用などの第一発見者となる機会が増えると予測されます)という根本の仕事はさらに重要となります。

この政策を円滑に進めるため、調剤薬局の現場では、予想されていたこととはいえ、実際に調剤する後発医薬品の選定(薬剤師自身が信頼できる製品でなければ使用できないわけですから、「品質への信頼度」と「提供されるメーカー情報の質・量の確保」、さらに「供給の安定度」などがポイントとなります)に始まり、処方医師に対し事前・事後を通じて、いかに正確で十分な情報を提供できるか、調査能力とコミュニケーション能力が問われているといえるでしょう。

今年度の支部総会が近づいてきました。私たちをとりまく情勢が刻々と変化するなか、さまざまな分野で活躍する同窓生が相集い、交流を深めることによって、正しい情報を得て正しく行動することができるかと期待しています。まずは総会に、みなさまがこぞって参加してくださるよう、心からお待ちしています。

英国の医療制度と薬剤師の職能

エーザイ株式会社
ガバメント・リレーションズ担当

(㊸、H8年卒) 葛西美恵

Aim:

英国の医療制度の概要と、薬剤師の社会的機能についての紹介

Contents:

薬剤師の役割として、病院・薬局を問わずその中心に位置づけられるものは、処方監査です。処方監査とは、最大限に得られる情報から、医師の処方内容を確認することです。処方監査は調剤監査ではなく、臨床知識、薬理学的知識、そして国の医療政策として推奨されるガイドラインの知識などを動員することから、薬剤師でしか行えない役割と位置づけられています。薬剤師が処方内容を確認してはじめて、調剤が開始されます。

病院薬剤師とコミュニティー薬剤師で大きく異なることは、前者では取り扱う薬剤が専門的なものであるに対し、後者では、かかりつけ医 (GP) から処方された一般的な薬剤を扱います。特に薬局で求められているのは、専門的治療ではなく、どこでも気軽に相談できるアクセスのよさであります。サービス内

容として、処方せん薬の供給、リピー処方せん薬の管理、スイッチOTCの適切な指導といった基本的なものだけでなく、医療アクセスに係るものに広がりを見せています。例えば緊急避妊薬に代表される、緊急時の要処方せん薬の供給です。これはPGD (patient group direction) とよばれ、処方せんがなくても薬剤師の専門判断で供給されます。その他にも、禁煙指導や麻薬中毒者への注射針の交換などが挙げられます。

これらの薬剤師によるサービスは、医師不足を補い、医療へのアクセス改善を目的とするものです。更に2003年より認められた、薬剤師や看護師などによる補足的処方では、前者では慢性疾患の疾病管理が主であり、後者では救急対応を担っています。

Conclusions:

私の経験から、英国薬剤師の役割として、
①医薬品の安全使用のため処方監査の役割、
②医療へのアクセス改善、効率化の役割の二つが主な役割だと感じました。



Mie Kasaiの倫敦メール

「調剤室から消えた薬剤師」

葛西美恵 編著

ドラッグマガジン 出版

- 1章 英国コミュニティー薬局の今
- 2章 英国の薬学教育と薬剤師の今
- 3章 特別座談会 英国薬剤師の今他

1996年	富山医科薬科大学 薬学部卒業、薬剤師資格取得
1996年～	石川県薬剤師会会営薬局、石川を本拠地とするチェーンドラッグ・ストア・薬局「クスリのアオキ(株)」他、薬局薬剤師として勤務
2002年	英国ロンドン大学大学院 臨床薬学修士課程履修(2003年9月修了)
2003年	ロンドンのノッティング・ヒル周辺を管轄するNHSのプライマリ・ケア・トラスト(ケンジントン&チェルシー PCT)傘下の病院、セント・チャールズ病院薬剤師部で、ファーマシーテクニシャンとして勤務(1年2ヶ月間)
2005年	英国ヨーク大学大学院 ヘルス・エコノミクス修士課程履修(2006年9月修了)
2007年4月 ～現在に至る	エーザイ株式会社 入社、ガバメント・リレーションズへ配属
(その他)	
2006年2月	「調剤室から消えた薬剤師」葛西美恵編著 ドラッグマガジン刊

19年度本部総会に出席して

支部長 柿崎直和

3月21日(金)、本部総会が開催されました。

総会に先立つ理事会の冒頭、松井会長より、仲川義人山形県支部長(㉖、S41年卒。現山形大学医学部教授・附属病院薬剤部長)が急逝されたとの発表がありました。その時には詳細不明でしたが、出席者一同大いに驚きつつ、松井会長の提案により、1分間の黙祷を捧げました(後日、新聞報道により、16日(日)朝7時に、心不全でご逝去と判明)。

総会では、前年度の事業報告と決算、今年度の事業計画と予算が説明され、承認されました。詳細が本部会報に掲載されていますので、ここでは省略します。

主な議題は、昨年10月に発足した「富山大学同窓会連合会」に対する、今後の薬窓会の関わり方でした。現状では、連合会幹事会(府和隆子薬窓会副会長、赤尾光昭学内常任理事が幹事)に出席する役員(幹事)を1名増員したい旨の提案がありました。それぞれに職務多忙(赤尾教授は臨床実習のご担当なので格別にお忙しい)で、薬窓会代表としての責務を十分に果たすための増員というのが提案理由でした。総会ではこの提案が了承され、人選は本部一任となりました。

また、連合会設立の可否をめぐる議論の一つだった「会費負担」に関しては、年間6万円程度の分担になる見込みです(19年度実績は59,910円)。

今後の連合会活動として、まずは新たに開設されたホームページを会員各位に閲覧してほしいことと、傘下の個別同窓会からの活動提案を募集したいことが打ち出されています。連合会のホームページは、「<http://www3.u-toyama.ac.jp/almni/>」です。

(富山薬窓会は、「[http://www.pha.u-toyama](http://www.pha.u-toyama.ac.jp/okuda/index-j.html)

<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/okuda/index-j.html>」です。

連合会への活動提案は、ひとまずそれぞれの同窓会組織としての検討が行われた後、役員会に諮られるルールですので、会員のみなさまは「薬窓会」宛てに、文書かメールでご提出ください。もちろん、支部の総会や幹事会に対してご提案くださっても大歓迎です。

午後6時からは、恒例となった卒業生・修了生による謝恩会が開催され、出席した各支部長にもスピーチの機会がありました。畑中学部長もご挨拶で触れられましたが、全国に組織されている薬窓会の意義とパワーが強調され、あたたかい歓迎のことばとして伝えられていました。



老化を楽しむ

(㉙、S47年卒) 松本茂外志

最近、私の好きな作家が一人増えた。村上春樹である。

もう60歳に近い中年が、村上春樹はないだろう、という皆さんの声が聞こえてきそう。

ところが、彼は1949年1月生まれで、現在59歳の正真正銘の中年であり、来年は還暦を迎える私と同世代の人間である。

だから、彼の若い頃の小説を読むと、僕らの富山での学生時代の記憶が鮮やかに蘇ってくるのである。彼のデビュー作である「風の歌を聴け」(1979)とか「1973年のピンボール」

(1980)、「羊をめぐる冒険」(1982)などを読んでみるといい。五福でのアパート生活を思い出すような懐かしい場面があちこちに出てくる。何も若者受けを狙って、村上春樹を読んでいるのではない。むしろ、人前で読むのは恥ずかしいのでブックカバーをつけて読んでいくくらいである。

その村上春樹が、ある本で面白いことを書いていた。人間が長生きするということは、老化の過程を見ることが出来るという特典が与えられているのであるというのだ。なるほど。正にモノは考えようだ。老化はつらいことではなく、年をとっていく過程でいろいろな機能が変化していくのを楽しもうという考え方だ。そこで、私は考えた。どうせ老化を楽しむなら、老化しないようにがんばっていきながら老化と戦っていく姿を楽しむ方がもっと楽しいのではないかと考えた。

そこで、老化を楽しむために老化に挑戦し始めた。挑戦の種目を選んだのが、ランニングと英会話である。どちらも放置すれば(努力しなければ)老化と共に確実に能力が低下する種目である。それだけにチャレンジ魂が沸々と湧いてくる。

先ずはランニング。私の目標は年間1000km走破。1回のランニングは10km。1年間で100回走れば1000kmになる。そのためには3日に1回10kmを走る計算になる。会社帰りは、仲間と酒を飲みに行くか、走りに行くか、毎晩戦っている。

もう一つは英会話。マンツーマン英会話「gaba」に通い始めた。目標はリタイア後、海外留学することができるくらいのレベルになることである。マンツーマンで1回40分は辛い。どう表現していいかわからなくなったときは、最後の手段「スマイル」である。

老化を楽しむとは、老化に挑戦することと考えて、行動を開始した。

ホノルルセンチュリーライド に参加して

(㉔、S41年卒) 岩 崎 孝 一

還暦祝いに家族から自転車をプレゼントされたのがきっかけでした。

その後、近所の花見川サイクリングロードを走り出し、印旛沼までの片道40kmを走るようになり、また、数種類の自転車を購入したりしました。

その内、ホノルルで毎年9月の最終日曜日にホノルルセンチュリーライドというイベントが開催されるのを見つけ無性に出場したくなりました。

このイベントはカピオラニ公園を朝6時15分に出発し、ダイヤモンドヘッドの横から美しい海岸線に沿ってスワンジービーチパークまでの50マイルを往復します。その人の体力に応じ20、25、40、50、75、100マイル(160km)のチェックポイントでステッカーをもらい夕方5時30分までに帰着する順位を競わないファンライドです。

家族連れから老若男女、種々の自転車で走ります。美しい海岸線を走りますので大変快適です。

日本からは2000人前後が参加し、全体で3600人位が走ります。

2004年は初参加のため、夏は毎週印旛沼往復80kmを練習し、大会に臨みましたが75マイルのチェックポイントで引き返しました。翌年は100マイル完走を目標に練習距離を延ばして大会に臨みました。当日往路は快調に走り折り返し点のスワンジービーチパークまで4時間で到着、千葉のサイクリング仲間と再会、しかし復路は3回筋肉が攣り6時間掛かり、10時間強で完走しました。

帰国してから燃え尽き症候群がそれともその頃開始した、楽器の練習の所為かその後は

パタリと自転車練習を止めてしまいました。

止めて2年、今年は再挑戦しようとウオーキングから開始し、少しタイヤを太くし、練習を再開します。

今年9月28日(日)どなたか一緒にハワイで自転車走りませんか？



ゴルフクラブ便り

第72回コンペ戦記

(2007年4月13日：金曜日)

今回のコンペ会場は、当会の有力メンバーで、とくに会員に対して面倒見の良いことではピカイチ(かつてご手配くださった浦和市近郊のゴルフ場と懇親会場への詳細地図は、手書きで懇切丁寧、地図の出来映えとともに感動しました!)の小国益男さん(47回)のホームコースです。同クラブの役員も務めておられる由で、以前からぜひ一度、当会のコンペ候補コースにとご紹介いただいていた。前回の千葉CCで、小国さんがみごと優勝されたのを機会に、優勝幹事としてもお世話くださるといってお言葉に甘えて、栃木市の「あさひヶ丘CC」にお邪魔した次第です。

当日は毎度のことながら快晴。集まった会員はやや少なめの18名でしたが、幹事の小国さんと、久郷正孝さん(43回)は当然ですが、宮崎時雄さん(29回)が退会された後は最長老になられた伊藤謙治さん(37回)に平井喬さん(41回)、マスターズ・スキー転戦のシ

ーズンを終了した川上惇さん(48回)、常連女性陣の大澤弥生さん(39回)、川村博子さん(49回。今回もご主人とご一緒に参加)、布施米子さん(55回)の3人、それにうれしい初参加の関誠さん(47回。幹事の小国さんの同期)が参加されました。

コースを、あの富澤誠造氏が設計したと聞いただけで、チャンピオン・コースを想像しますが、まさにその通り。168万平方メートルの広大な敷地に27ホール(今回は、筑波・日光コースを使用)が、国際ルールに適合させて(自然な地形を生かしながら、科学的な分析と緻密な計算)設計されていました。つまり、私たちにとっては、“美しいけど、むずかしい”ということですね。もちろん過去には、男女のプロ競技も開催されています。

さて、戦績ですが、コースは予想通り、挑戦者にさまざまな試練を与えてくれました。しかし、日ごろから手堅いゴルファーには、幸運の女神も微笑んでくれました。中でも高木良造さん(44回)がダブルペリア方式のハンディにも恵まれて優勝され(47・50=97、ハンディ24、ネット73)、“本当に久しぶり”と大喜びのご挨拶。そして進境著しい都築正明さん(56回)が連続準優勝、さらに上級者の川村長生さん(46回)と橋浦十八さん(45回)がともにベスグロの86(賞は年齢で橋浦さん)と好成績でした。BBはこのところやや不調が続く村上則彦さん(53回)でした。

(柿崎記)



第73回コンペ戦記

(2007年10月12日：金曜日)

葉窓会のゴルフコンペは、本当に不思議なほど晴天ばかりです。やはり、みなさんの日ごろの心がけなのでしょう。今回も予報は曇りで、少し肌寒いお天気と想像しましたが、スタート直後からだんだん空は晴れてきて、すばらしい秋の日和となりました。

今回の幹事は、前回優勝の高木良造(44回)さんとBB賞の村上則彦(53回)さんと、コンペ戦場は茨城県随一、国内でも屈指の評価を得ている「大利根CC」で開催されました。開場は1960年(47年目)で、ゴルフ場設計の名匠「井上誠一氏」が手がけた、風格を備えた美しいコースで、スタート・ティーに向かうときの景色からして、松の大木の間に広々と緑のフェアウェーが見渡せるフラットなコースレイアウトで、名門の香りが漂ってくるほどでした。過去にも日本オープンなどの大きなプロの大会が開催されていますが、2010年には2回目の日本女子オープン開催が予定されているそうです。ただし、未だに乗用カートが導入されておらず、数名の会員がやむなく参加を見合わせるという残念なできごともありましたが、真のチャンピオンコースに挑む17人の猛者(うち女性は常連の3人・・・大澤弥生さん：39回、川村博子さん：49回、布施米子さん：55回)が集まりました。中には、コンペに備えて前日病院で検診を受け、主治医のお墨付きをもらって参加された会員もおられました。

何しろ全員、最高のお天気に最高のコース、最高の気分でプレーしていますから、スコアは二の次、三の次となりましたが、……。俗にいう“サービスホール”などあるわけもなく、ショートホールもミドルホールも距離は十分、上がってみれば、100を切ったのは2人(93と95)だけという状況ながら、まあ、チャン

ピオンコースというのは手強いものであることを証明する結果でした。

お風呂で汗を流した後は、お楽しみの懇談と表彰式です。話題はやはり、「このような本格的な名コースでまたやりましょう」という意見と、70回の記念大会での1泊コンペ(夜のカラオケも印象的)が楽しかったため、「再び、泊まりのコンペを企画してほしい」という意見が多く出されました。

肝心の成績ですが、栄えある優勝は、事務局長の宮澤英雄(50回)さんでした。ホームコースの習志野CCで鍛えられた成果が出ました。準優勝は実力どおりの小国益男(47回)さん、3位には練習十分の都築正明(56回)さんと、名手・実力者が順当な位置を占める結果となりました。BB賞はなんと、前回に引き続いて村上さん、普段は若手として細身の身体から繰り出す豪快なショットで鳴らす実力派ですから、ご挨拶では“こんなはずではなかった。捲土重来を期す”と、優勝幹事の獲得を力強く宣言されました。

長年、熱心な会員として参加してこられた大杉光一郎(44回)さんが亡くなられ、また体力的な理由や、ご家族の介護に専念されるためのご退会などが相次いで事務局から報告されました。50回以降の若手?会員が増えてきてはいますが、どうぞみなさま、奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

(柿崎記)

桔梗会便り

(57、S45年卒) 米 沢 伸 子

毎月第3土曜日に午後1:30から4:30まで北区王子駅近くの北とぴあで勉強会をしています。会員は16名で、毎月欠席者も少なく頑張っていますが、今年1月から新しいお仲間が増え17名になりました。

毎回の当番は2人で、1人4~5ページを担当して輪読しています。1テーマを3年位かけて勉強していますが、今は「シンプル薬理学(南江堂)」に取り組んでいます。

わずかな範囲の担当ですがとても難しく、当番に当たると大変です。参考書やインターネットで調べてプリント資料として配って、それらを参考にしながら説明をしていきます。

当番のときは慌てふためいて準備し、不十分なまま発表するので、これでは皆さんに申し訳なく、普段の勉強が大事、これからは当番でないときも真面目にやろうと反省するのですが、終わってしまうと喉元過ぎればで、また忘れてしまいます。

14年前入会した時、皆さんの熱心さと向学心の強さに圧倒されるばかりでしたが、今にして会に入ってよかったと思うことは、入らなかったら絶対に勉強しなかつただろうことを皆さんに引っ張ってもらって何とかやっていることです。

今まで、「新生化学入門(南山堂)」では学生時代に学ばなかった遺伝子工学について、又、「シンプル免疫学(南江堂)」では免疫について夫々最新の成果を踏まえて基礎から学ぶことができました。輪読の後はちょっと一休みということで、おやつの時間にし、この時薬学や薬剤師関係のいろいろな情報を聞くことができ、とても参考になります。その後はまた勉強会で、「薬剤師のための実践英会話」を副読本としてテープを聞きながら英会話の練

習をしています。

また1月の新年会や2年に1度の懇親旅行も楽しみです。一昨年は三春の滝桜と会津の武家屋敷の見学でした。

さて、昭和53年(1978年)に発足した桔梗会は今年で30周年を迎えます。これを記念に6月には、退会された方もお招きして食事会をした後、船橋中央病院薬剤部長をしておられた真野由比子氏(57回生)に講演をして頂くことになりました。その他に何か記念になるものを残したいということで、今までの首都圏遠久染に載った「桔梗会だより」をまとめて小冊子を作ることにしました。改めて桔梗会の歴史を振り返ることとなり、これから一層の発展に向けた文字通り記念碑となればと期待しております。

尚 今年6月中頃(真野さんの講演会の前)に、生薬学の森田直賢先生の主宰される会の「韓国濟州島の旅」に桔梗会のメンバー(有志)も加えていただけることになりました。

◇桔梗会の入会はいつでもどなたでも大歓迎です。

お問い合わせは、

定留温子氏(48回生)まで

TEL&FAX: 042-465-0206

ジヨムソン街道トレッキング

(48、S36年卒) 中 嶋 啓

昨年の10月末から11月初めにかけて第4回目のネパールトレッキングに行ってきた。

今回はカトマンズ→ポカラ→ジヨムソンまで飛行機を利用し、8,167m峰ダウラギ(写真1)山麓のツクチェ村、同期の松繁氏が活躍している林檎のマルファ村、仏教・ヒンズー教の聖地ムクチナートなどのムスタン地方を風の谷カリガンダキ河に沿って散策してきた。この街道は明治32年、仏教の原典を求めて河口慧海がチベットに密入国するために通過した道でもある。ジヨムソン空港の南にあるツクチェ村は富山の利賀村と友好村調印をしており、研修を通じて日本語を話せるようになった若者が多い。

マルファ村は松繁氏の活躍の中心地で、この辺り一帯はネパール蕎麦(赤い蕎麦)が有名であり、松繁氏は村の若者二人を彼の別荘のある北海道新得町に招き、ソバ焼酎の製造や蕎麦栽培の研修を受けさせている。ジヨムソン空港から北のチベット方面に向かうと山容は一変し、岩と砂利ばかりとなり樹木はほとんど生えていない。岩肌には古代に海底が押し上げられたことを示す褶曲模様がみられ、



写真2 山の生い立ちを表す褶曲模様

その下には小さな修道院(ゴンパ)が見られる(写真2)。標高3,760mのムクチナートはチベット仏教とヒンズー教の聖地で、ここから眺めるニルギリやダウラギリもまた素晴らしい。

ジヨムソン滞在最後の日に白い髭を生やした不思議な老人に出会った(写真3)。彼の名前は近藤亨(86歳)、新潟大学農学部助教授を経て今ではこの岩と砂と風のムスタン地方で大農場を2ヶ所開拓しており、今回、我々全員を近くの農場に招待してくれた。数週間滞在して農作業を手伝ってみないかと誘われたが、とてもその体力と気力はなく丁寧にお断りした。今後、ムスタン開発協力会の一会員として何らかの協力をする旨約束している。

今年はエベレストBC近くまで登り、これを最後にしたい。



写真1 朝日に輝くダウラギリ峰



図3 白髭の近藤理事長と

平成 18 年度 支部年会費納入者一覧

(総計 323 名)

※平成 19 年 3 月から平成 19 年 4 月
までに年会費を納入された方の一覧
です。

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
23	昭和	10	三浦茲統	37	昭和	24	水牧勝美	42	昭和	30	竹村日出男
23	昭和	10	山下正男	37	昭和	24	齊藤正巳	42	昭和	30	渡邊 静
24	昭和	11	今村捨三(故人)	37	昭和	24	千葉繁治	42	昭和	30	武内哲夫
25	昭和	12	加藤隆之介	37	昭和	24	白土昭伍	42	昭和	30	種谷 豊
26	昭和	13	竹澤富三	37	昭和	24	大和宗雄	43	昭和	31	安部 弘
27	昭和	14	片桐昌義	38	昭和	25	栗田泰至	43	昭和	31	久郷正孝
28	昭和	15	岩崎光一	38	昭和	25	橋本人之	43	昭和	31	元田 修
28	昭和	15	神山元治	38	昭和	25	熊谷隆司	43	昭和	31	古徳 治
28	昭和	15	須田民三	38	昭和	25	小西一光	43	昭和	31	細 俊彦
28	昭和	15	柳澤政隆	38	昭和	25	上塚 勉	43	昭和	31	作田 充
29	昭和	16	宮崎時雄	38	昭和	25	上野 洵	43	昭和	31	山岸伸郎
29	昭和	16	内田晴孝	38	昭和	25	深井三郎	43	昭和	31	車田知之
30	昭和	16	金子春雄	38	昭和	25	津田照明	43	昭和	31	富山和夫
30	昭和	16	米屋清一	38	昭和	25	飯塚 滋	43	昭和	31	本多 存
30	昭和	17	高山 董	38	昭和	25	上野純一	43	昭和	31	落合信雄
31	昭和	17	前田政治	39	昭和	26	永森 肇	43	昭和	31	上野謙爾
31	昭和	17	渡会春雄	39	昭和	26	米丸洋子	43	昭和	31	脇田秀雄
32	昭和	18	菅山順一	39	昭和	26	大澤弥生	44	昭和	32	岡田和造
32	昭和	18	石倉隆一	39	昭和	26	本郷 修	44	昭和	32	岩崎 朗
32	昭和	18	渡辺伸一郎	40	昭和	28	眞船恒雄	44	昭和	32	金森桂子
33	昭和	19	岩崎 貢	40	昭和	28	高橋重二	44	昭和	32	高木良造
33	昭和	19	浜田 孝	40	昭和	28	高瀬ミサ子	44	昭和	32	紙谷得子
34	昭和	20	永井正之	40	昭和	28	千原秀夫	44	昭和	32	車田千秋
34	昭和	20	織井文貞	41	昭和	29	基常弘晃	44	昭和	32	種井健治
34	昭和	20	石田鉄郎	41	昭和	29	志甫 正	44	昭和	32	石原俊明
35	昭和	22	佐伯 昇	41	昭和	29	松田利子	44	昭和	32	川村隆子
35	昭和	22	大高 諒	41	昭和	29	上銘外喜夫	44	昭和	32	大杉光一郎
35	昭和	21	野村哲夫	41	昭和	29	川渕和子	44	昭和	32	大村恭子
36	昭和	23	高柳 清	41	昭和	29	前川 稔	44	昭和	32	鈴木芳子
36	昭和	23	高柳茂雄	42	昭和	30	吉村久仁子	44	昭和	32	永田邦夫
36	昭和	23	川原一美	42	昭和	30	久世啓吾	44	昭和	32	高瀬清孝
36	昭和	23	島谷佐太郎	42	昭和	30	桑野二郎	45	昭和	33	安田孝子
37	昭和	24	伊藤謙治	42	昭和	30	荒川泰蔵	45	昭和	33	古谷 隆
37	昭和	24	山口輝夫	42	昭和	30	佐藤正美	45	昭和	33	荒木紀子
37	昭和	24	秋元 昂	42	昭和	30	才川 勇	45	昭和	33	佐藤 忠
37	昭和	24	松岡邦衛	42	昭和	30	山上高德	45	昭和	33	佐藤池鶴子

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
45	昭和	33	佐野健治	48	昭和	36	松繁克道	51	昭和	39	宮城 淳
45	昭和	33	児玉英篤	48	昭和	36	川上 惇	51	昭和	39	宮城征子
45	昭和	33	上田真澄	48	昭和	36	川上芳子	52	昭和	40	広瀬南海子
45	昭和	33	新森倍正	48	昭和	36	前田伸子	52	昭和	40	小野澤カツ子
45	昭和	33	湊 秀夫	48	昭和	36	中嶋 啓	52	昭和	40	是枝 潤
45	昭和	33	橋浦十八	48	昭和	36	定留温子	52	昭和	40	中島良信
45	昭和	33	神田満枝	48	昭和	36	藤原 忠	52	昭和	40	坂本由美子
45	昭和	33	大郷利治	48	昭和	36	樋口明彦	52	昭和	40	増田信男
46	昭和	34	加藤恭一	48	昭和	36	油木劭之	53	昭和	41	安西慶子
46	昭和	34	結城澄子	48	昭和	36	裏木健司	53	昭和	41	岩崎孝一
46	昭和	34	五十嵐俊二	48	昭和	36	井上禎子	53	昭和	41	曲淵徹雄
46	昭和	34	森 哲郎	48	昭和	36	絹野浩二	53	昭和	41	金田玲子
46	昭和	34	西岡碩枝	49	昭和	37	三尾美和子	53	昭和	41	佐脇幹雄
46	昭和	34	川畑耕祐	49	昭和	37	小川信吾	53	昭和	41	坂本理英子
46	昭和	34	竹腰時男	49	昭和	37	半澤弥榮子	53	昭和	41	村上則彦
46	昭和	34	中村恵子	49	昭和	37	林 幸子	53	昭和	41	中山裕江
46	昭和	34	尾嶋司郎	49	昭和	37	鈴木国男	53	昭和	41	南 法夫
46	昭和	34	齋藤諒三	49	昭和	37	森本武男	53	昭和	41	林 聰
47	昭和	35	安川正巳	50	昭和	38	下田 力	54	昭和	42	安達文三
47	昭和	35	安川俣子	50	昭和	38	宮澤英雄	54	昭和	42	奥田雅子
47	昭和	35	関 誠	50	昭和	38	高野祐子	54	昭和	42	宮下克彦
47	昭和	35	京泉清男	50	昭和	38	川田桂子	54	昭和	42	金森朱美
47	昭和	35	橋本喜信	50	昭和	38	前田一郎	54	昭和	42	佐藤和恵
47	昭和	35	古川貞子	50	昭和	38	定塚紀志子	54	昭和	42	山口征司
47	昭和	35	市中滋郎	50	昭和	38	飯田武治	54	昭和	42	市川すすむ
47	昭和	35	室生知子	50	昭和	38	武石万里子	54	昭和	42	市川春子
47	昭和	35	若林庸夫	50	昭和	38	野口正喜	54	昭和	42	小木曾周子
47	昭和	35	小国益男	50	昭和	38	野中美代子	54	昭和	42	庄司孝市
47	昭和	35	須藤昌二	50	昭和	38	脇谷紀代子	54	昭和	42	庄司幸子
47	昭和	35	梅原 弘	50	昭和	38	脇谷昌志	54	昭和	42	新井良侑
47	昭和	35	並木英明	50	昭和	38	木原幸弘	54	昭和	42	石田行知
47	昭和	35	牧山嘉昇	51	昭和	39	加賀美壯一	54	昭和	42	竹田美千代
47	昭和	35	籠瀬信夫	51	昭和	39	古市泰宏	54	昭和	42	長谷見蓉子
47	昭和	35	城宝史郎	51	昭和	39	諏訪庸夫	54	昭和	42	高津聖志
47	昭和	35	野田久正	51	昭和	39	石塚典子	54	昭和	42	高津智子
48	昭和	36	吉田誠一郎	51	昭和	39	長谷川悦子	55	昭和	43	阿部 啓
48	昭和	36	久保一夫	51	昭和	39	塚越由美	55	昭和	43	井上みどり
48	昭和	36	久保春子	51	昭和	39	島田輝子	55	昭和	43	奥村啓輔
48	昭和	36	絹野浩二	51	昭和	39	島田庄蔵	55	昭和	43	松野 萌
48	昭和	36	三浦 晋	51	昭和	39	那須邦久	55	昭和	43	石橋 嘉夫

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
55	昭和	43	太田晴美	62	昭和	50	川添敏司	72	昭和	60	根岸邦枝
55	昭和	43	滝沢春美	62	昭和	50	白江秀子	73	昭和	61	佐治真奈美
55	昭和	43	竹原 仰	63	昭和	51	荻野幸司	74	昭和	62	根本 了
55	昭和	43	中村典子	63	昭和	51	村松真紀子	76	平成	元年	朝倉 渡
55	昭和	43	南 菖子	63	昭和	51	滝沢照美	76	平成	元年	平嶋直子
55	昭和	43	梅本美智子	64	昭和	52	河村 攻	77	平成	2	足原 淳
55	昭和	43	牧野由紀子	64	昭和	52	河村光恵	80	平成	5	渡辺常作
56	昭和	44	加藤正子	64	昭和	52	坂口一夫	83	平成	8	水島正明
56	昭和	44	高田 優	64	昭和	52	真船英一	84	平成	9	金子卓嗣
56	昭和	44	山岸悦子	64	昭和	52	鈴木利之	86	平成	11	岡 陽子
56	昭和	44	山本 恵	65	昭和	53	岩崎弘子	89	平成	14	磯部友之
56	昭和	44	酒井綾子	66	昭和	54	井上 豊	89	平成	14	狩野江利加
56	昭和	44	都築正明	66	昭和	54	井上彩子				旧職員
56	昭和	44	綿鍋維男	66	昭和	54	荻原いく江				元職員
56	昭和	44	鈴木英世	66	昭和	54	加藤浩嗣				職員
56	昭和	44	濱島健二	66	昭和	54	宮田康子				
56	昭和	44	深澤 宣	66	昭和	54	金原祐吉				
57	昭和	45	奥村淳子	66	昭和	54	金子美代子				
57	昭和	45	古屋典子	66	昭和	54	鹿田史紀				
57	昭和	45	佐々木由紀子	66	昭和	54	真船恭子				
57	昭和	45	天笠三珠子	66	昭和	54	川崎英之				
57	昭和	45	服部 仁	66	昭和	54	草柳淳子				
57	昭和	45	保坂公年	67	昭和	55	安光英太郎				
57	昭和	45	北野栄一	68	昭和	56	須田潤子				
58	昭和	46	石井誠司	68	昭和	56	須田真次				
58	昭和	46	川邊恭吏	69	昭和	57	宇田晴美				
58	昭和	46	穂苅 茂	69	昭和	57	橋本文江				
58	昭和	46	末木一夫	69	昭和	57	小林真弓				
58	昭和	46	上田宗央	69	昭和	57	野尻幸子				
59	昭和	47	井本直樹	70	昭和	58	浦本博志				
59	昭和	47	駒田由美子	70	昭和	58	遠藤義之				
59	昭和	47	松本茂外志	70	昭和	58	笠原貴子				
59	昭和	47	田代真一	70	昭和	58	山口貴史				
60	昭和	48	鈴木むつ子	70	昭和	58	佐川征博				
61	昭和	49	岸岡勝美	71	昭和	59	近藤高史				
61	昭和	49	中西まや子	71	昭和	59	黒田豊志				
62	昭和	49	梶谷早苗	71	昭和	59	小太刀真人				
62	昭和	50	荻野洋子	71	昭和	59	小澤佐余子				
62	昭和	50	杉山恭子	71	昭和	59	木暮政恵				
62	昭和	50	西山信右	72	昭和	60	工藤知子				

平成 19 年度 支部年会費納入者一覧

(総計 243 名)

※平成 19 年 5 月から平成 20 年 3 月
までに年会費を納入された方の一覧
です。

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
22	昭和	9	津森繁隆	40	昭和	28	奥村節子	45	昭和	33	児玉英篤
23	昭和	10	山下正男	40	昭和	28	眞船恒雄	45	昭和	33	松岡慶子
25	昭和	12	加藤隆之助	40	昭和	28	高橋重二	45	昭和	33	新森信正
26	昭和	13	竹澤富三	41	昭和	29	基常弘晃	45	昭和	33	大郷利治
28	昭和	15	岩崎光一	41	昭和	29	吉村久仁子	45	昭和	33	竹村康子
28	昭和	15	須田民三	41	昭和	29	志甫 正	45	昭和	33	尾山秀夫
28	昭和	15	渡辺良士	41	昭和	29	松田利子	46	昭和	34	加藤恭一
28	昭和	15	柳澤政隆	41	昭和	29	諏訪利則	46	昭和	34	結城澄子
28	昭和	15	神山元治	41	昭和	29	川渕和子	46	昭和	34	春山奈津子
29	昭和	16	宮崎時雄	41	昭和	29	前川 稔	46	昭和	34	西岡碩枝
29	昭和	16	内田晴孝	42	昭和	30	佐藤正美	46	昭和	34	川畑耕祐
30	昭和	16	金子春雄	42	昭和	30	佐藤哲男	46	昭和	34	竹腰時男
30	昭和	16	高山 薫	42	昭和	30	山上高德	46	昭和	34	中村恵子
30	昭和	16	米屋清一	42	昭和	30	種谷 豊	46	昭和	34	齊藤諒三
31	昭和	17	渡会春雄	42	昭和	30	竹村日出男	46	昭和	34	尾嶋司郎
31	昭和	17	米田力次郎	43	昭和	31	安部 弘	47	昭和	35	安川正巳
32	昭和	18	菅山順一	43	昭和	31	元田 修	47	昭和	35	安川俣子
32	昭和	18	渡辺伸一郎	43	昭和	31	細 信彦	47	昭和	35	関 誠
32	昭和	18	石倉隆一	43	昭和	31	車田知之	47	昭和	35	市中茂郎
33	昭和	19	濱田 孝	43	昭和	31	富山和夫	47	昭和	35	室生知子
35	昭和	22	大高 諒	43	昭和	31	本多 存	47	昭和	35	若林庸夫
35	昭和	22	富岡穂一(故人)	43	昭和	31	落合信雄	47	昭和	35	城史史郎
35	昭和	21	野村哲夫	43	昭和	31	脇田秀雄	47	昭和	35	並木英明
37	昭和	24	伊藤謙治	43	昭和	31	上野謙爾	47	昭和	35	野田久正
37	昭和	24	吉田則雄	44	昭和	32	岡西澄子	47	昭和	35	古川貞子
37	昭和	24	松岡邦衛	44	昭和	32	金森桂子	48	昭和	36	久保一夫
37	昭和	24	水牧勝美	44	昭和	32	紙谷得子	48	昭和	36	久保春子
37	昭和	24	斉藤正巳	44	昭和	32	車田千秋	48	昭和	36	絹野浩二
37	昭和	24	大和崇雄	44	昭和	32	石原俊明	48	昭和	36	三浦 晋
38	昭和	25	河津光高	44	昭和	32	永田邦夫	48	昭和	36	川上 惇
38	昭和	25	熊谷隆司	44	昭和	32	岩崎 朗	48	昭和	36	川上芳子
38	昭和	25	小西一光	44	昭和	32	大村恭子	48	昭和	36	船場定信
38	昭和	25	津田照明	45	昭和	33	安田孝子	48	昭和	36	定留温子
38	昭和	25	飯塚 滋	45	昭和	33	荒木紀子	48	昭和	36	田村美智子
38	昭和	25	上野純一	45	昭和	33	佐藤 忠	48	昭和	36	藤原 忠
39	昭和	26	本郷 修	45	昭和	33	佐藤池鶴子	48	昭和	36	油木勲之

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
48	昭和	36	樋口明彦	54	昭和	42	牧戸宏行	60	昭和	48	田中加代子
49	昭和	37	古谷 孝	54	昭和	42	大内力男	60	昭和	48	中西憲幸
49	昭和	37	小川信吾	54	昭和	42	高津聖志	60	昭和	48	田谷栄子
49	昭和	37	森本武男	54	昭和	42	高津智子	62	昭和	50	荻野洋子
49	昭和	37	川村博子	55	昭和	43	伊藤亮三	62	昭和	50	梶谷早苗
49	昭和	37	米澤弥栄子	55	昭和	43	井上みどり	62	昭和	50	岩崎典子
49	昭和	37	林 幸子	55	昭和	43	柿崎直和	62	昭和	50	金原祐吉
49	昭和	37	鈴木国男	55	昭和	43	松野 萌	62	昭和	50	川添敏司
49	昭和	37	三尾美和子	55	昭和	43	蔵 礼子	62	昭和	50	田島明美
49	昭和	37	川村博子	55	昭和	43	滝沢春美	63	昭和	51	荻野幸司
50	昭和	38	宮澤英雄	55	昭和	43	南 菖子	63	昭和	51	本郷富江
50	昭和	38	前田一郎	55	昭和	43	梅本美智子	63	昭和	51	矢澤清子
50	昭和	38	定塚紀志子	55	昭和	43	鈴木 隆	63	昭和	51	高橋裕子
50	昭和	38	福田昌平	56	昭和	44	山岸悦子	64	昭和	52	古村真理子
50	昭和	38	野中美代子	56	昭和	44	山本 恵	64	昭和	52	坂口一夫
50	昭和	38	櫻井久子	56	昭和	44	酒井綾子	64	昭和	52	真船英一
50	昭和	38	高野祐子	56	昭和	44	横山司甫	64	昭和	52	西山 祥
50	昭和	38	下田 力	57	昭和	45	佐々木由紀子	64	昭和	52	鈴木利之
50	昭和	38	秋本紀子	57	昭和	45	松林久一	65	昭和	53	安光英太郎
50	昭和	38	野口正喜	57	昭和	45	中島和彦	65	昭和	53	水谷 律
51	昭和	39	宮城 淳	57	昭和	45	服部 仁	66	昭和	54	宮田康子
51	昭和	39	宮城 征子	57	昭和	45	北野栄一	66	昭和	54	金子美代子
51	昭和	39	諏訪庸夫	57	昭和	45	林 茂寛	66	昭和	54	原 信行
51	昭和	39	石塚典子	57	昭和	45	古屋典子	66	昭和	54	真船恭子
51	昭和	39	長谷川悦子	58	昭和	46	上田宗央	66	昭和	54	原 信行
51	昭和	39	塚越由美	58	昭和	46	石田行知	67	昭和	55	渡辺茂美子
51	昭和	39	那須邦久	58	昭和	46	千田耕平	68	昭和	56	大野伸子
52	昭和	40	広瀬南海子	58	昭和	46	村田悦郎	69	昭和	57	小林真弓
52	昭和	40	国頭洋子	58	昭和	46	浜谷行高	69	昭和	57	須藤喜子
52	昭和	40	小野澤カツ子	58	昭和	46	末木一夫	70	昭和	58	浦本博志
52	昭和	40	水林須美子	58	昭和	46	高橋裕子	70	昭和	58	近藤法子
52	昭和	40	太田美矢子	59	昭和	47	駒田由美子	70	昭和	58	佐川征博
52	昭和	40	中島良信	59	昭和	47	今村雅志	71	昭和	59	松井知子
52	昭和	40	増田信男	59	昭和	47	三輪 保	71	昭和	59	松井哲夫
53	昭和	41	中村和子	59	昭和	47	清水善行	72	昭和	60	小林 譲
53	昭和	41	南 法夫	59	昭和	47	田代真一	73	昭和	61	加藤秀樹
53	昭和	41	林 聡	59	昭和	47	三浦嘉統	73	昭和	61	佐治真奈美
53	昭和	41	曲淵徹雄	60	昭和	48	亀田治子	73	昭和	61	加藤秀樹
54	昭和	42	市川春子	60	昭和	48	斎藤さよ子	74	昭和	62	金子明代
54	昭和	42	森川礼子	60	昭和	48	千田豊子	76	平成	元年	朝倉 渡

回	年号	年卒	氏名
77	平成	2	下谷明彦
77	平成	2	出崎克也
79	平成	4	松本弥生
80	平成	5	渡辺常作
85	平成	10	高瀬明子
86	平成	11	川西那奈
88	平成	13	牧野圭吾
89	平成	14	田端芳邦
93	平成	18	植田康嗣
93	平成	18	中田美世子
93	平成	18	天野美緒
旧職員			鳥居塚和夫
旧職員			渡辺和夫
元教員			中込和哉
旧職員			谷村憲徳

物故者

(慎んでご冥福をお祈り申し上げます。)

- ②4 11年卒 今村 捨三 (18. 9.27)
- ③5 22年卒 富岡 穂一 (19. 5.10)
- ②6 13年卒 林 利邦 (19.12.24)

平成 19 年度 支部活動報告

首都圏支部資産状況

(平成 19 年 3 月末現在)

1. 支部活動報告

① 役員会

2007 年 7 月 2 日 赤坂富山県会館
(7 月 10 日 幹事長・副幹事長引継ぎ
住化分析センター)

8 月 1 日 珈琲の館

9 月 18 日 新馬橋区民会館

2008 年 2 月 28 日 京橋区民会館

② 第 1 回幹事会

2007 年 10 月 18 日 ホテルかずさや

第 2 回幹事会

12 月 14 日 TKP ビジネスセンター

第 3 回幹事会

2008 年 3 月 19 日 TKP ビジネスセンター

1. 株券

北陸電力 3,785 株 (額面 500 円)

2. 普通預金

498,477 円 (北陸銀行)

平成 19 年度会計報告

(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

収 入 の 部				単位 円
予 算		実 績		
項 目	金 額	項 目	金 額	
繰越金	71,894	繰越金	71,894	
年会費	400,000	年会費	214,000	
総会費	600,000	総会費	342,000	
株式配当	170,000	株式配当	176,004	
預金より	258,106	M M F 解約	715,569	
		預金より	401,003	
		受取利息	919	
合 計	1,500,000	合 計	1,921,389	

支 出 の 部				単位 円
予 算		実 績		
項 目	金 額	項 目	金 額	
総会費	500,000	総会費	764,418	
会合費	50,000	会合費	112,045	
交際費	10,000	交際費	0	
事務通信費	200,000	事務通信費	414,571	
同好会補助費	64,000	同好会補助費	64,000	
会報発行費	550,000	会報発行費	395,451	
出張費	50,000	出張費	145,000	
貸し金庫費	21,000	貸し金庫費	12,251	
事務局費	52,500	事務局費	10,851	
繰越金	2,500	繰越金	2,802	
合 計	1,500,000	合 計	1,921,389	

平成 20 年度予算(案)

(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
繰越金	2,802	総会費	500,000
年会費	400,000	会合費	100,000
総会費	600,000	交際費	10,000
株式配当	170,000	事務通信費	200,000
預金より	427,198	同好会補助費	64,000
		会報発行費	550,000
		出張費	120,000
		事務局費	52,500
		繰越金	3,500
合 計	1,600,000	合 計	1,600,000

—— 編集後記 ——

今年も会報「首都圏遠久袋」をお送りする季節となりました。

今年の話題提供は、昨年近畿支部総会で講演され好評を博した平成8年83回卒の葛西美恵さんに「英国の医療制度と薬剤師の職能」というテーマでお話いただきます。日本で薬局、ドラッグストアでの薬剤師業務を経験後、イギリス留学。ロンドン大学とヨーク大学で学ばれた後帰国され、現在エーザイ株式会社にお勤めですが、日本の薬剤師業務との違い、今後のわが国の薬剤師のあり方を考えるうえでも大変お役に立つ内容です。ぜひ皆さん方、特にこれからの仕事を考える若い方々には是非お聞き逃しのないように多数のご参加を幹事一同お待ちしております。なお、葛西さんの講義は認定薬剤師養成のためのインターネット研修でも配信されています。

(幹事長 ⑤⑦ 伊藤 要一)

事務局 アサヒ興業 (宇田川 : uda@pop-asahi.co.jp)

幹事長 伊藤要一 e-mail : y-ito@ime.or.jp

—— お願い ——

首都圏支部では本部の永久会費とは別に独自の活動維持の為、会員の皆様から年間1,000円の会費を徴収しています。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

桔梗会30周年を記念して

①記念誌の発行

桔梗会は今年30周年を迎えますので、その記念として、今までの「首都圏遠久架」に載った会員達の諸記事を集めて冊子を発行することになりました。

それは30年間の私たちの薬学に対する熱意と苦闘の足跡ですが、それに勝る楽しい会であったことが随所にかがわれます。

②記念講演会(どなたでも聴講できます)

講師：本年3月まで薬剤部長として社会保険船橋中央病院に勤めておられた第57回卒の真野由比子さんにお願ひしました。

薬剤師本来の仕事の続けてこられた真野さんに病院薬剤師としてのいろいろな経験について話していただく予定です。質疑応答あり。

会場：昭和大学(出席者数により教室は未定)

日時：2008年6月28日(土)午後1時半～約2時間を予定しています。

ご出席下さる方は大澤(048-886-7769)又は定留(042-465-0206)まで6月15日までにご連絡ください。

桔梗会からのお願い

勉強の内容はかなり専門的ですが、今後とも和やかな楽しい会であり続けたいと思います。これからのますますの発展のため、同窓諸姉の一人でも多く、この機会に桔梗会に入って頂くようお願いいたします。

桔梗会一同